

令和4年度 豊田市地域自立支援協議会 第2回全体会 議事録

- 日時：令和5年3月7日（火）午後1時30分から3時30分まで
- 場所：豊田市役所 東庁舎7階 大会議室1・2
- 出席者
 - ＜委員 19名＞（順不同）
 - 平野隆之（会長）、阪田征彦（副会長）
 - 那須江身子、三宅やすよ、鈴木誠子、小坂繁、有村秀一、岡本衛彦（代理：松井純一）
 - 森下尚志、鈴木雅樹、神谷真巳、西村多恵、横山裕一、辻望美、井上亘、照山紀子
 - 成瀬智、金田光、梅田幸延
 - ＜担当者会議 5名＞
 - 渡辺裕矢、中村結香、千葉晃嗣、殿内勝夫、勝田康裕
 - ＜ブロックリーダー 4名＞オブザーバーとして出席
 - 鈴木雄介、森恭晃、国松佐知（代理：稲見洋佑）、後藤啓輔
 - ＜事務局＞
 - 豊田市 福祉部障がい福祉課、保健部保健支援課
- 欠席者
 - ＜委員 3名＞（順不同）
 - 大谷忠幸、小田康夫、稲垣徹

1 あいさつ

豊田市地域自立支援協議会 平野会長

- 平野会長
 - 今年度の進路状況について、各特別支援学校より報告をいただきたい。
- 井上委員
 - ほとんどの生徒の進路が決まった。
- 辻委員
 - 全ての生徒の進路が決まった。主な行先は一般就労と就労移行支援事業所である。
- 横山委員
 - 全ての生徒の進路が決まった。医療的ケアが費用な生徒が30名おり、卒業後の進路先については課題となっている。

2 議題

(1) 各部会・WG等の今年度の総括について

資料1

- 千葉委員（医療的ケア児者等支援部会）
 - 資料1-1に沿って説明
- 平野会長
 - 冒頭での横山委員の発言も踏まえ、引き続き連携体制を取って進めていただきたい。
- 殿内委員（防災啓発WG）
 - 資料1-2に沿って説明
- 鈴木氏（北部ブロック）
 - 資料1-3に沿って説明

- 森氏（中部ブロック）
資料 1 - 4 に沿って説明

- 平野会長
ブロックごとに地域の事業所等と連携を図っているがこの点について、阪田副会長から評価をいただきたい。

- 阪田委員
相談支援専門員だけではなく、様々な福祉サービス事業所のスタッフ全体の質の向上は永遠のテーマである。事業所が急速に増えてきた現状、質の向上を考えていかなければならない。豊田市は市域が広く、ブロック分けしているので、ブロックごとに研修等を実施することで質を高めていく取組をしている。また、それぞれの取組を横展開していけばさらに効果が出てくると思う。

- 稲見氏（南部ブロック）
資料 1 - 5 に沿って説明

- 平野会長
取組②の事例検討について、具体的にどのような検討をしたのか報告をしてほしい。

- 稲見氏
窃盗を繰り返す人の事例について検討を行った。具体的な対応策については結論が出なかったが、相談員としてどのように関わっていくべきかなどの検討はできた。今回は日程調整の関係上難しかったが、今後は保護司等関係者も交えて事例検討を実施できればと思う。

- 後藤氏（中山間ブロック）
資料 1 - 6 に沿って説明

- 渡辺委員（ブロック制）
資料 1 - 7 に沿って説明

- 平野会長
平成 29 年からブロック制を導入したが、当時は上手く機能するかななどの不安もあった。導入からある程度経過した現在のブロック制の評価や課題について意見をいただきたい。

- 殿内委員
市域が広い中で、消防や教育など福祉以外の関係機関とブロックごとに顔合わせをすることで関係を築くことができた。また、高齢化した障がい者の対応として、ブロックごとに包括支援センターとの連携も図ることができるようになった。
一方、ブロックごとの好事例が全市的に展開できていないこともあるので、取組の全市展開については今後の課題であると認識している。

- 事務局
基幹相談支援センターの必要性については当時から悩み続けているが、基幹として求められている機能がいくつかあるが、現状その機能を委託相談支援事業所が上手く担っている、引き続き様子を見ながら体制については考えていきたい。

○有村委員

中山間地域での就労・就学について把握していることがあれば教えてほしい。

○後藤氏

就労については中山間地域に働く場が少ないのが現状。現在、農福連携など雇用先の情報収集をしているが、今後も引き続き把握に努めていきたい。就学については、豊田市内の学校以外に瀬戸や岐阜に通っている方もいると把握している。

○有村委員

農福連携に関連して、各方面で問題提起されている農業型障がい者雇用について情報共有したい。ビニールハウスを一定区画区切って、障がい者3名と健常者1名を1グループ単位とし、1日6時間のフルタイムで農業を行うという事業。障がい者の雇用自体は東京都にある大企業などが行い、実際の出勤先は田舎にあるビニールハウスという構造。愛知県内でもこのビニールハウスがいくつもできている。問題はそこで作った農作物がほとんど売られず、破棄されているということ。また1棟のビニールハウス内で、毎日フルタイムで実施するような仕事量は無いにもかかわらず、雇用率を増やすためこの形態を取っている。法に触れているわけではないが、問題視されている。

○西村委員

新聞の記事等で内容は把握しており、就労センター内で情報周知もしている。また、就労センターとしてこのような就労先を勧めているということはない。大企業の一員として働けるということで自ら希望して就職する方もいるようだが、今後も就労センターとしては従来どおりの対応をしていく。

○中村委員・勝田氏（課題整理部会・研修検討 PT）

資料1 - 8に沿って説明

○神谷委員

こどもチームの取組として、こどもに関する知識を深めていくというのはとてもありがたいと思う。こどもが福祉サービスを利用する事例が増えてきている。福祉サービスを利用する前提ではなく、相談員がしっかりとアセスメントをした上でその子のことを知り、起きている課題に対してどう支援するのが良いかを考えていく必要がある。部会の中ではそのような視点で考えていただければと思う。

○勝田氏

相談員として資格を取っている以上、福祉サービスを使いたい人に対して言われたからすぐに利用計画を書くのは望ましくない。自立支援協議会の活動をとおして相談員が本人主体で支援していけるようにしていきたい。

○阪田委員

豊田市はこどもの支援について、こども発達センターを中心に充実していると思うが、課題の範囲が広がってきているため、自立支援協議会の中にこのようなチームができて議論していくことはとても重要である。

(2) 豊田市地域生活支援拠点等の評価について

資料2

○事務局

資料2-1、2-2に沿って説明

○勝田氏

拠点における緊急時対応の実績について説明

今回の緊急時対応をとおして、緊急時に受入れを行う短期入所の施設等で、登録者が事前に体験をしていることが非常に重要であると再認識した。体験しておくことで本人も受け手側も安心して対応できる。

○平野会長

拠点や基幹を委託相談支援事業所が担っているということについて委託の方から意見を聞きたい。

○千葉委員

大変ではあるが、やりがいはある。もう少し仲間が増えていくと良いのではと感じる。

○殿内委員

1つの基幹が人材育成などを取りまとめている仕組みも良いと思うが、現在のブロックごとでの仕組みは、市全体の課題や協議会の運営について委託全員が携われているという立場にいることは良いと感じる。横の連携を充実させていけばさらに良くなると思う。

○鈴木委員

拠点の仕組みに精神障がい者の顔が見えてこない。課題整理部会の方で本人主体の話が出ていたが、精神障がい者のことは拠点の中で考えていくのか、精神の部会で考えていくのかわからない。

○事務局

拠点は3障がいを対象としているので、精神障がい者が対象にならないということはない。緊急時支援が必要として、拠点の登録要件に該当すれば精神障がい者の方も対象となる。

(3) 第5次豊田市障がい者ライフサポートプランに係る実態調査の実施結果について

資料3

○事務局

資料3-1、3-2に沿って説明

3 その他報告事項など

○平野会長

障がい者権利条約に関する国連からの勧告について情報提供

閉会